

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691000044
法人名	株式会社 天正
事業所名	イエローガーデンいのくち
所在地	富山県南砺市蛇喰1261番地
自己評価作成日	令和3年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様一人ひとりの尊厳を大切に、個人の生活スタイルに合わせ自宅で過ごされていた時のように、日々の家事、洗濯物たみ等を利用者様と行っている。地域交流の一環として「14歳の挑戦」、「高校福祉課介護実習」、「地元小学校中学年授業ボランティア」、「地元ボランティアグループ」などの受け入れなど積極的に行っている。
また、利用者様が重度にならないように、医師・看護師・薬剤師・病院・病院地域連携室・家族・スタッフが連携をとり、日々の健康観察・引継ぎ・報連相を密に行っている。利用者様や家族の希望があれば終の棲家として看取りも行い、本人様が出来るだけ安楽に最期まで過ごせるように医師・看護師・家族・スタッフが一丸となり対応をしている。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年11月10日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設から10年目。近隣在住のスタッフが多く、ご近所や駐在所など顔の見える関係を築いている文字通り「地域密着型」と呼べるグループホーム。管理者を中心として利用者、家族、スタッフ、医療機関や関係機関とのコミュニケーションも良好で、看取りまで安心して過ごせる環境が整っている。未経験から始め、長く勤務するスタッフも複数在籍しており、働きやすい職場であることも垣間見える。「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」3つの法人理念を掲げ、特に「楽笑」の言葉にスポットを当てており、いつも笑って楽しく過ごせる場所であられるように心がけている。また、2つのユニットは、いつでもどちらでも勤務できるよう職員間で利用者の情報が共有され、食事は職員と利用者と一緒にすべて手作りで提供している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の 人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者 とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解 者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「尊厳を守る」「感謝」「楽笑」を掲げ、目につく場所に掲示。常に職員が意識を持ち、何が実践できるか研修や会議の場で話し合い確認をするように努めている。	理念は、フロアや職員トイレなど目に触れるところに掲げられ、3つある理念の中で一番大切にしている「楽笑」の文字は切り絵で大きく玄関に貼られている。会議で理念や理念に沿ったケアができるようスタッフ間で確認し合い、浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小中学校の授業の一環で認知症のお年寄りとの交流や「14歳の挑戦」「高校福祉課介護実習」の受け入れを行っている。	近隣は独り暮らし、高齢世帯が多く、施設・職員がそれとなく見守ったり、声をかけたりしている。自治会の回覧板で地域行事の確認を行っている。また、地域の駐在所に連絡をしている。地元高校の福祉課の実習生の受け入れを行い、コロナ禍においても地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、入居申し込み、事業所見学にいられた方々にホーム内を案内し見て頂き、認知症の方の理解や支援の方法を伝えている。「南砺市グループホーム認知症相談窓口」「こども110番の家」の登録も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では区長、民生委員、行政、地域包括支援センター職員、駐在所、家族に出席して頂き近況報告、意見交換等を行いサービスの向上に努めている。	新型コロナ感染対策のために対面での開催はせず、施設内会議等について、区長や民生委員、駐在所、地域包括支援センター、家族に書面や便りで近況を報告している。	任期交代で人員が変わったタイミングでコロナ禍となり、区長や駐在所等へは状況報告のみとなっているため意見が反映されていない状況にある。今後の状況を鑑み、意見が反映されるよう工夫した会議の運営に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に事業所の取り組み等近況報告をしている。また、行政主催の連絡協議会や年2回のグループホーム協議会、研修会に参加し、地域包括や居宅等とも連絡を取り協力関係を築くようにしている。	行政主催の各種連絡協議会やグループホーム協議会等を通じて関係の構築ができています。また、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と空き情報の共有や、行政へ感染予防グッズの連絡など、日常の中でのやりとりが頻繁に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動指針を職員の目につく所に掲示、マニュアルを整備し事業所内で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居契約時に施設としての方針を家族に説明し、同意を得ている。法人で身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催。事業所内の勉強会やケア会議等で情報を共有し、利用者の理解を深め、話し合い、工夫し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行動指針、マニュアルを通し、事業所内で虐待をしないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が外部研修で学んだ事等を職員に伝え、今後活用できるように勉強会を設けて行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて説明し、疑問、質問、要望があれば出来るだけ聞き、理解の上で契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に利用者の近況報告や体調等と報告している。又、家族からの要望、意見を出来るだけ聞くようにしており、ミーティングなどで共有、ケアや運営に反映している。	家族との面会制限があり、連絡や報告、日常の様子をオンラインや電話で行っている。内服について家族の要望で内服用のゼリーを使用したケースもあり、家族からの要望や意見は、日報とパソコン(タブレット)に記入し、管理者と職員が共有、対応できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議を行い、その都度、意見交換を行っている。定期的に個人面談を行ったり、各事業所スタッフが集まるミーティングを行い幹部と職員の意見や提案を出し合う機会を設けている。	毎日の申し送りや全体会議で出た意見は管理者がまとめ改善できることは実施している。また、職員同士で考える環境を提供している。今年度、新型コロナ感染予防グッズの消毒器、検温器等を要望し、法人より準備されている。年度末に統括者・上長・管理者と個人面談の機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談を行い個々の能力に応じた待遇に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力や希望に応じ、資格が取れるように勤務調整や補助金制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政や県等の研修会に職員を出席させたり、他事業所等へ業務支援などに行きサービスの質の向上の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族から入居前までの生活歴を記入して頂き日々の暮らしのケアに活かしている。また、日常の様子を観察し不安や要望があれば傾聴し安心して過ごせるような関係づくりに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に家族の意見、要望等を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人、スタッフで話し合いを行い、何が必要か、何を求めているのかを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、支え合える関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出時には家族の協力を得ながら共に支え合える関係に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら、自宅への帰省、以前通われていた場所へ出かける等の支援をしている。また、面会時には本人と面会に来られた家族みんなで一緒に写真などを撮るようにしている。	SNSやオンラインを通じて家族に写真を送ったり、友人や家族と電話する機会を設けたりしている。直接会うことは難しくても関係が途切れないような取り組みを行なっている。絵手紙や年賀状などでのやり取りを通し関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握、日常生活での関わり、お互いがお互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、行き合った時に近況を聞いたり、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との関わりを通し、思い、要望、希望の把握に努め、その人らしい暮らしが出来るように支援している。言葉で表現できない方は表情や動作等で把握するように努めている。	入居時に、本人、家族から希望や意向を聞き把握するようにしている。また、日常の行動や言動の中で見られる変化や状況を記録、職員が共有し、本人の意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居前に家族から今までの様子の聞き取りや生活歴、アセスメントを取ったり、前ケアマネジャーの方に連絡を取り自宅での生活の様子を聞いたりして日々の記録を通し、一人ひとりの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通して、表情、言動等で状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に沿った記録を書き、介護計画を作成している。また、日常生活の中で気づいた本人の様子や家族の思い要望を反映させるように努めている。	6ヶ月に一度プランの見直しを行なっている。家族や医療機関の意見はオンラインや電話で確認している。職員全体会議での意見を入れてプラン作成につなげている。	現在も家族や医療機関等の要望や意見を取り入れた計画になっているが、状態変化に伴い本人や家族の意見・意向の変化を記録することで、担当者会議時の家族や医療機関の参加状況が確認できるような介護計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子、ケア等を個人記録に記入し、担当者会議、モニタリングを行い共有、実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により病院受診を往診に変更したり、処方薬を薬局と家族と連携を取り配達支援等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の児童、生徒、学生、地域のボランティアグループなど楽しみが持てる支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、退院時に家族、病院と相談をしながら決めて。月1回の往診、前日までにDr. に報告や、受診時は状況報告の手紙や当日外来連絡し指示を仰ぎ対応している。家族が受診、搬送等に付き添えない場合は了解を得て職員が同行をしている。	退院時からの利用者が多いため、本人、家族の意向や状況に応じて柔軟に主治医が選択できるように努めている。協力医の月1回の往診と週1回の訪問看護(ねこの手)で健康管理を支援している。外来は家族同行が基本なため、受診時は電話やFAXで近況報告やフィードバックをもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の健康チェックがある。前日、当日朝までにナース相談表を作成、日常の気づき、往診、受診結果、受診前相談等の連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、早急に地域連携室に連絡を取り、介護サマリー等必要な情報の提供や退院前の情報収集、状態が変わった方のカンファレンス参加をし、早期に入退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	立ち上げから約9名の看取りを経験。医師、看護師、家族、訪問看護師、病院等と連携を取りながら看取りを行うことが出来た。入居時に看取りの説明や重度に近くなってきた利用者家族、担当医師と話し合いの場を作り、最期まで気持ちよく看取りが出来るようにスタッフと話し合い、相談をしながら支援に取り組んでいる。又、利用者本人が元気なうちにどのように最後を迎えたいか話し合うようにしている。	入居時に重度化方針を説明し、意向の確認を行っている。状態変化の時に今後の意向の再確認を行い、家族、主治医や訪問看護師・職員と連携をとりながら看取りまでの対応を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議などで意見交換や利用者の状態確認を行い、緊急時対応が出来るように意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い内1回は消防署立ち合い、夜間、災害を想定。消防署の方の指導のもと訓練計画をしている。	火災の避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署立ちあいで2階からの避難も訓練している。法人本部でハザードマップを確認し、事業所の避難計画が作成され、それに基づいて安全な避難や備蓄品の準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、一人ひとりを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けに努めている。	入社時の研修で尊厳について伝え、実践できるようにしている。日常生活の中でプライバシーの配慮が必要な場面では他者に気づかれないよう、また、小さな声で声をかけるなどの対応を行っている。地域の馴染みの言葉を使う場合もあるが、尊厳を守るよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いが表現できるように関わりを持ちながら、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、自由に安心して過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の美容師訪問にてカット、カラー、髭剃り等本人の希望を聞いている。また、入浴後、外出時の服など自分で選べる方には選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族や近所、スタッフの自宅畑から収穫した野菜を頂き、利用者と献立を考えたり、一緒に盛り付けなどを行っている。月のイベント時の食事をワンフロアで一緒に食べ、バイキング形式で食べる楽しみになるように工夫。食後に使用した食器拭きなどを一緒にしている。	毎日の食事はすべて手作りで、食材の準備、献立も職員が行っている。また、おはぎや押し寿司など利用者の希望のものを一緒に作って食べ、クリスマスケーキや正月の煮しめなど季節のものをみんなで楽しく作っている。天気の良い日には弁当を作り、敷地内の屋外で食事を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態をスタッフ全体で把握し、状態に合わせた食事を支援している。制限などある方は偏りや脱水にならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声掛けをし、支援、介助が必要な方はスタッフが支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記録し、排泄の間隔を把握。トイレで排泄ができるように誘導などを行っている。また、全介助の方でも座位が取れる方は出来るだけトイレで排便が出来るように支援している。	排泄状況、水分補給等をパソコンに記録し、時間の間隔や排泄サインをキャッチするなど、一人ひとりに合わせた介護支援を行なっている。トイレがわかりやすいように案内を貼ったり、体調に合わせて夜間はポータブルトイレを使用し安全な排泄ができるように工夫し、便座に座って排泄できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、水分補給や食物繊維の摂取を心掛けている。便の状態、排便の周期を把握し、看護師や主治医に相談をしながら、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決まっているが、体調、受診、往診、外出など個人の予定に合わせて入浴日や時間を調整し、出来るだけ希望に沿った入浴が出来るように支援している。又、入浴剤を使い、色、香りなども楽しんで頂けるように工夫している。	入浴は月～金の午前と午後に可能となっている。利用者には週2回程度入浴いただいております。曜日や時間は一人ひとりの体調や希望に合わせて対応している。気分や季節に合わせて入浴剤を入れたり、地元のゆずを使いゆず湯にして楽しむ時間の演出をしている。ユニット別に入浴が可能で、1階はリフト浴に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状態に合わせた休息の支援や室温、明るさの調整をしながら安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調の変化を確認し変化があれば主治医、看護師、薬剤師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や利用者の能力に合わせ、役割、家事、レクリエーション等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を聞き、家族の協力を得ながら外出支援をしている。	コロナ禍でなかなか出かけることができないが、受診時に家族と自宅へ寄ることもある。天気の良い日には施設近隣を散歩したり、屋外で食事をしたり外気に触れる機会を作り、近所の方と挨拶を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方には家族と金額を決めて本人に所持してもらい、買い物ができるように支援している。管理の難しい方は家族から少量のお金を預かり買い物など必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時家族から預かった携帯電話やホームの電話などを使用し連絡を取り合ったり、年賀状など節目のときには宛名書きや返信を書く支援などをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態や関係性に合わせ、家具、テーブル、椅子、ソファ等配置、窓辺や壁などに季節の飾りなどを取り入れ季節感を出したり、使いやすい空間、居住環境を作り心地よく過ごせるように工夫している。	居室が並んでいるプライベートな空間と居間やキッチンのあるパブリックな空間に分かれていて、メリハリのある生活が送りやすい環境になっていた。明るく広い居間は活動的な雰囲気、キッチンの横には畳スペースもある。事業所で猫を飼っており、利用者と一緒に穏やかに過ごしている。壁にはトイレや居室が分かるようにリボン等で飾り付けてあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々に合わせて場所、部屋替え、席、席替え、気の合う人同士で過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族写真、孫、ひ孫さん達が作った工作や絵などを飾り、心地よく過ごせるように工夫している。	ベッドとタンスが備え付けてあり、一人ひとりの好みに合わせて配置されている。タンスの上や壁に思い思いの写真や作品が飾られている。ベッドの配置により広く感じられる居室もあり、移動や支援が安心してできるスペースを確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状況、状態により家具の配置、ベッドの位置を工夫し安全に自立出来るように支援している。		

2 目標達成計画

イエローガーデンいのくち

作成日： 令和 3 年 12月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	任期交代で人員が変わったタイミングでコロナ禍となり、区長や駐在所等へは状況報告のみとなっているため意見が反映されていない状況にある。今後の状況を鑑み、意見が反映されるよう工夫した会議の運営。	コロナが落ち着いたら運営推進会議月には、家族も含めて会議ができるようにしたい。	開催ができるまでの間はその都度、まとめた内容を郵送またはそれに準ずる手段(メールなど)で報告する。 開催ができるようになってからは、家族への参加を呼びかける。	12ヶ月
2	26	現在も家族や医療機関等の要望や意見を取り入れた計画になっているが、状態変化に伴い本人や家族の意見・意向の変化を記録することで、担当者会議時の家族や医療機関の参加状況が確認できるような介護計画の作成。	家族・医師・病院とより一層緊密に連携を図る。	状態変化に応じて、プランを作成し、家族・医師・病院と、その人に応じた計画の作成を心がける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。